記者説明会資料

平成 20 年 10 月 23 日

独立行政法人　国民生活センター

メッシュ状アイロン台を通り抜けるアイロンのスチームに注意

国民生活センターに「ズボンにアイロンをかけていた際に、一度にたくさんのスチームを出す機能を使用したところ、スチームがメッシュ状アイロン台を通り抜け、右膝の上をやけどした」という苦情相談の申し出があった。PIO-NET（全国消費生活情報ネットワーク・システム）には、この事例以外にアイロンを使用していたときにアイロン台を通り抜けたスチームでやけどをしたという相談が、2001 年度から 2007 年度までの間に 6 件*）寄せられており、中には医者に診てもらったところ跡が残ると言われたものもあった。

今回、相談があった商品について、国民生活センターでアイロン台裏側の温度がどのように上昇するかを調べたところ、一度にたくさんのスチームを出す機能（以下、「スチーム噴射機能」）を使用した時は、この機能を使用しない時に比べて、アイロン台裏側がより高温になることがわかったことから、同種の事故の未然防止のため情報提供することとした。

*）2008 年 10 月 10 日までに寄せられた相談情報より、各事例を個別に精査したものである。

１．相談の概要

［事例１］

ズボンにアイロンをかけていたときに、一度にたくさんのスチームを出す機能を使用したところ、手ぬぐい、ズボン、メッシュ状天板のアイロン台を通り抜けたスチームが、素足の

右膝の上約 6 センチの太もも部分にあたり、直径約 8 センチの円形の範囲にやけどをした。直ぐに氷や水で冷やし薬を塗る処置をした。アイロンに注意表示をきちんと書くべきではないか。

（2008 年 8 月受付、50 代、女性、埼玉県）

（アイロンの輸入販売業者：（株）グループセブジャパン、銘柄：ティファール）

（事業者の対応）

当センターよりアイロンの輸入販売業者に注意表示の検討を求めたところ、今後、他社製品も参考にして、取扱説明書に「アイロン台によっては透過したスチームや湯滴でやけどの原因になります。十分お気をつけください」の表記を追加したいとの回答があった。

［事例２］

蒸気が下に抜けるメッシュ状のアイロン台を使用し、厚手の綿ズボンを履いてアイロン掛けの最中、強制的にスチームが出るスイッチを押したら蒸気が左足太ももに当たった。すぐ冷やしたが 4×2.5 センチの水ぶくれができ、通院で 10 日間の治療を要すると言われた。

アイロン台裏側に、スチームが下に抜ける、やけどしないようにとの注意表示があり、アイロン台に付いていた注意書きには「膝にタオルをおいて利用するように」と書かれていたと思う。

（2007 年 6 月受付、50 代、女性、千葉県）

（アイロンの製造業者：パナソニック（株））

２．事例１の商品に関するテスト結果（アイロン台裏側の温度の測定）

国民生活センター商品テスト部で、相談者が使用していたアイロンとアイロン台を用いて、ズボンのアイロン掛けを想定した操作を行い、スチーム噴射機能の使用時と未使用時について、アイロン台裏面の網目部分とアイロン台中心部の裏面下 2.5cm と 5.5cm の温度を測定した。

テストの結果、スチーム噴射機能を使用した時は、裏面網目は最高 100℃、裏面下 2.5cm の位置では 92℃になることがあり、裏面下 5.5cm の位置でも 70℃を超えることがあった。なお、スチーム噴射機能を使用しない時は、裏面網目はどの箇所も 100℃に達していたが、裏面下 2.5cm の位置で 70℃を超えたのは操作開始の箇所のみであり、裏面下 5.5cm の位置ではどの箇所も 30℃以下であった（表参照）。

図　アイロン台裏側の測定箇所(赤丸)

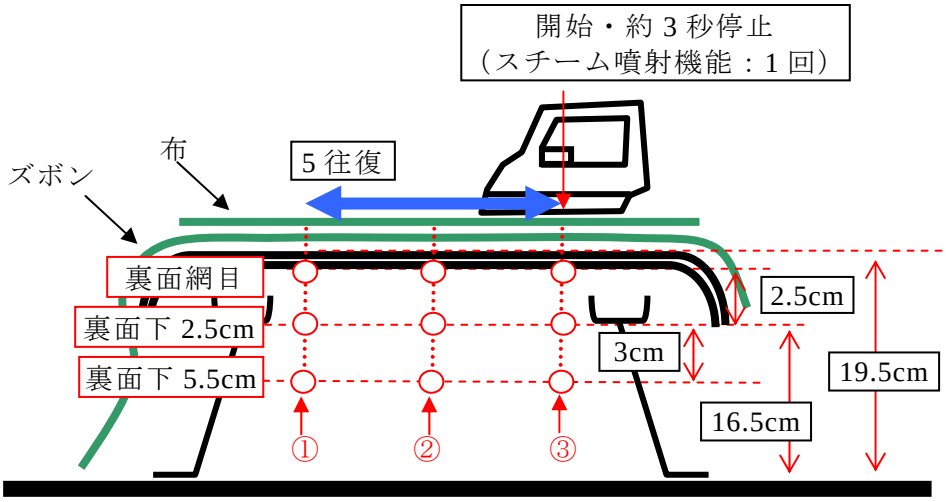


表　アイロン台裏側の最高温度(℃、各 3 回測定の最高値)

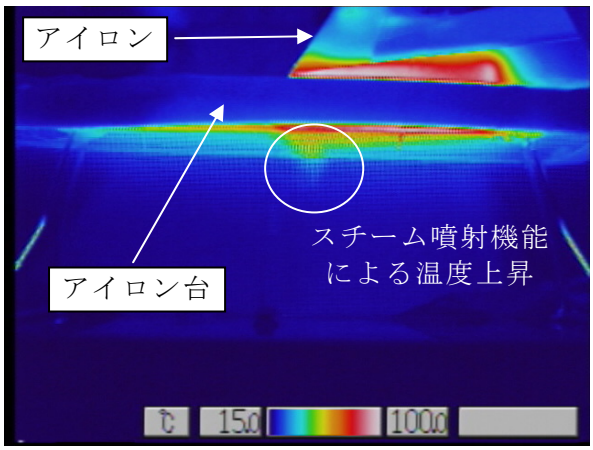
	スチーム噴射機能使用時			スチーム噴射機能未使用時		
	①	②	③	①	②	③
裏面網目	100	100	100	100	100	100
裏面下 2.5cm	40	92	84	45	67	82
裏面下 5.5cm	25	72	24	24	23	26

＊70℃以上赤字

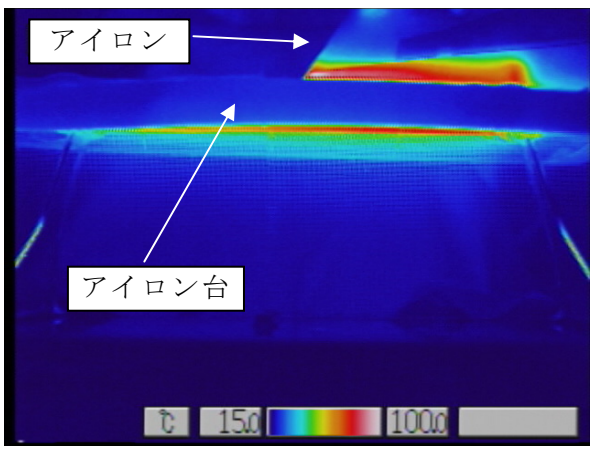
写真はアイロンを操作させているときのアイロン台下の熱画像で、アイロン台の裏側は温度が高く、スチーム噴射機能を使用した時には、さらに下方向まで温度が上昇することがわかった。

写真　アイロン台裏側の熱画像（横方向から見たところ）

スチーム噴射機能使用時



スチーム噴射機能未使用時



（参考）

「最新の熱傷臨床－その倫理と実際－」元東京女子医科大学教授 平山峻、杏林大学教授 島崎修次編集　克誠堂出版(23 頁)によれば、「70℃以上の温度では、表皮の温度が平衡に達すると、その時点で細胞傷害が確認される」とある。

３．注意表示の現状

メッシュ状天板のアイロン台（以下「メッシュ状アイロン台」）でスチームアイロンを使用した場合の注意表示について、市販されているアイロンとアイロン台を調べたところ、以下のような記載があった。

（１）アイロンの記載例

（取扱説明書）

・アイロン台を透過したスチームや湯滴は、やけどの原因になります。(パナソニック(株))

・アイロン台によっては、透過した熱いスチームや湯滴でやけどの原因になります。（東芝ホームアプライアンス（株))

（２）アイロン台の記載例

（本体：天板裏面のフレームにシール貼付）

・かけ面は、スチームがよく抜けます。スチームや湯滴で火傷をしないようにご注意ください。

（取扱説明書）

・アイロン台（掛け面）はスチームをよく通します。透過したスチームや湯滴で火傷をする恐れがありますので、膝元などにタオル等を掛けてスチームが肌に直接あたらないようにしてご使用ください。

・アイロン台の下に脚を入れて使用しないで下さい。アイロン台の裏側からアイロンの熱やスチームが抜けるため、やけどの恐れがあります。

４．問題点

メッシュ状アイロン台は、スチームアイロンをかけたときに、スチームがアイロン台を通り抜けて衣類に残らないため仕上がりがきれいになるということが商品の特長として謳われている。また、市販されているアイロンとメッシュ状アイロン台には、アイロン台を通り抜けるスチームについての注意が表示されているものがあった。

しかし、一般家庭で座ってアイロンがけをする場合には、アイロン台の形状から膝がアイロン台の下に一部入る状態となることは通常予想される使用形態である。スチームアイロンのスチーム噴射機能をメッシュ状アイロン台で使用した時には、通常のスチームのみを使用した時より、アイロン台裏側が高温になり、やけどの危険性が増すことについての注意表示がアイロンに必要と考えられる。

５．事業者への要望

スチームアイロンのスチーム噴射機能を使用した時は、アイロン台によっては透過した熱いスチームや湯滴でやけどをする危険性が、より高いことについて分かりやすく注意表示することが望まれる。

６．消費者へのアドバイス

スチームアイロンのスチーム噴射機能を、メッシュ状アイロン台の上で使用した時には、高温のスチームがアイロン台を通り抜けて、やけどをする危険性があるので、スチームが使用者自身の膝や太ももに当たらないように注意をすること。

［要望先］
社団法人　日本電機工業会
株式会社　グループセブジャパン
［情報提供先］
内閣府国民生活局総務課国民生活情報室
経済産業省商務情報政策局製品安全課

本件連絡先　相談部
電話　03-3446-0999（相談受付）

<title>メッシュ状アイロン台を通り抜けるアイロンのスチームに注意</title>